

**発育史** (図 41-2)

雌ハマダラカの体内で発育し唾液腺に移行した**スポロゾイト**は吸血とともにヒトの体内に刺入され、血流に乗って肝臓に到達すると、速やかに肝細胞に侵入し多数分裂(シゾゴニー)を始める(**赤外期**)。シゾゴニーの結果、多数の娘虫体(**メロゾイト** merozoite)が血中に放出される。放出されたメロゾイトは速やかに赤血球上のレセプターに結

合・侵入し、**早期栄養体** early trophozoite (**輪状体** ring form)、**後期栄養体** late trophozoite (**アメーバ体**)、**分裂体**(シゾンチ schizont)と発育し、侵入48時間後には20~30個のメロゾイトを放出する(図 41-3)。三日熱・卵形マラリア原虫の場合、肝細胞に侵入したスポロゾイトの一部は**休眠型**(**ヒプノゾイト** hypnozoite)と呼ばれるステージへ分化し、時に数か月~数年を経たのちに**再発** re-

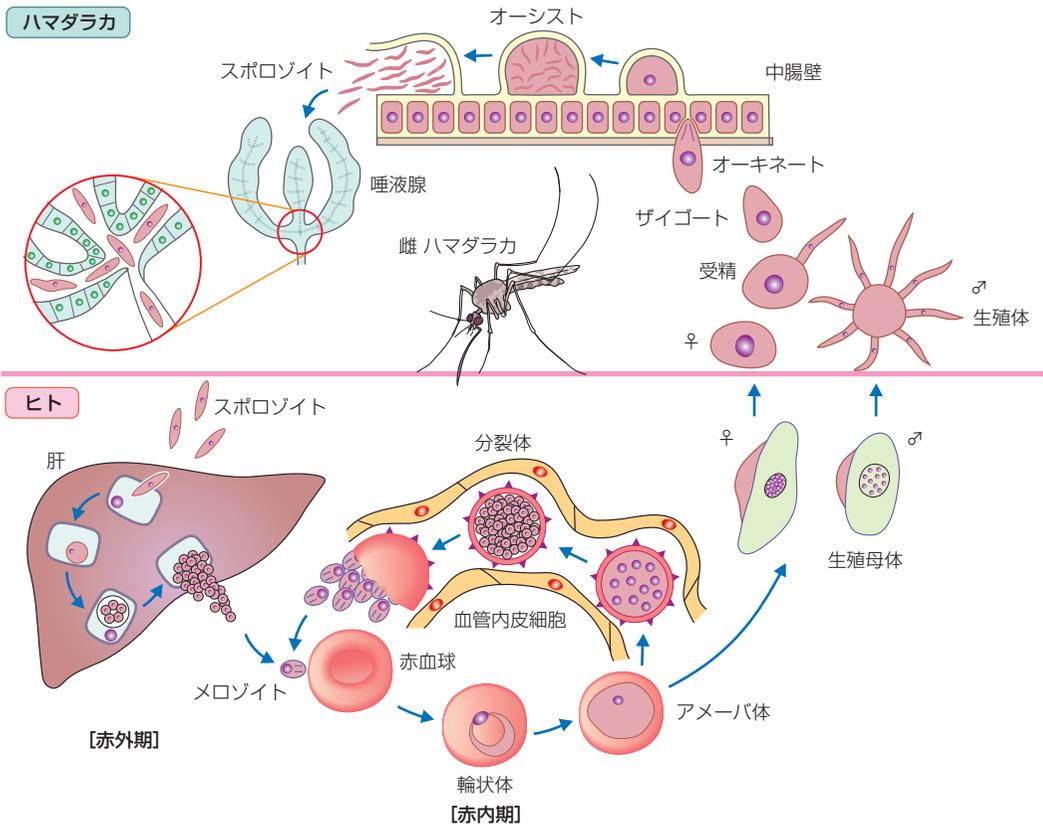


図 41-2 マラリア原虫の生活史(大阪大学微生物研究所のご厚意による)  
(大阪大学微生物研究所ホームページより許可を得て改変)

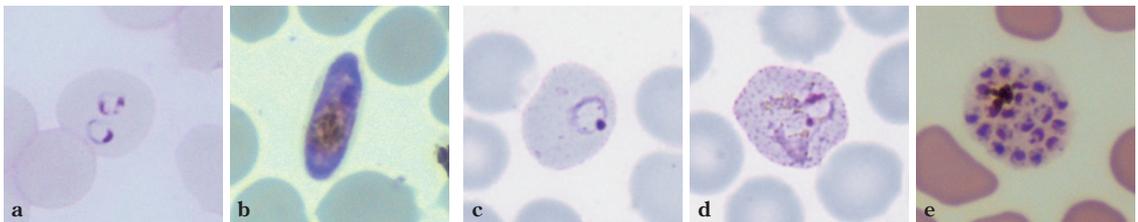


図 41-3 マラリア原虫(橘真由美先生のご厚意による)  
a, b: 熱帯熱マラリア原虫の輪状体(a)と生殖母体(b).  
c~e: 三日熱マラリア原虫の輪状体(c), アメーバ体(d), 分裂体(e).